

令和7年度 松虫中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	68	52	46	7.7	11.0
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	521
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	71	67.7	57.7	57.6	50.7	57.5	5.4	4.4	11.0	8.8	4.9
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

**令和7年度 松虫中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—**

調査結果から

★中学生チャレンジテスト(3年生)

<国語>

【成果と課題】

大阪府平均を3.5ポイント上回っていた。思考判断の観点の問題に関して、府平均はわずかに上回ってはいるものの、特に「読むこと」の区分の平均が31点中17.3点だったので読解力向上をはかる必要がある。

【今後に向けて】

漢字の問題に対する苦手意識が強い生徒が多い。そのため、漢字学習に集中して取り組むプリントや週1回取り組んでいる漢字テストを引き続き実施し、基礎学力の向上につとめる。

<社会>

【成果と課題】

大阪府平均と比べ、6.5ポイント上回っていた。分野別に見ると、地理的分野が2.9ポイント、歴史的分野が3.5ポイント上回っており、歴史的分野と復習を事前に実施したことが成果につながったと思われる。記述式の平均点が府平均を上回ったものの、8ポイント中1.8ポイントであるため、記述式の問題への対策が必要だと考える。

【今後に向けて】

地理的分野の復習を行い、基本的な知識の定着を再度図る。また、記述式の問題への対策として、記述式の問題に触れる機会を増やして、得点力を上げていくことを行なっていく。

<数学>

【成果と課題】

大阪府平均と比べ、3.7ポイント上回った。領域別で見ると、「数と式」「図形」「関数」「データの活用」すべての領域で上回った。府平均と比べ上回っているが、苦手分野になりやすい記述式の問題では同ポイントになっており、証明や説明等の記述力をつけていくことが今後の課題である。

【今後に向けて】

デジタル教科書等のICT機器の活用は継続して行い、定期テストでも計算問題を出題することで計算問題に対する意識を高めることと、授業の中で積極的に説明する機会を設けることで記述力をつけ学力の向上をめざす。

<理科>

【成果と課題】

全体としては、府の平均点より4.7ポイント高かった。しかしながら、どの領域も思考・判断の観点の得点が低く、問題形式では、記述式の正解率が府平均より低かった。

【今後に向けて】

定期テストにおいても、計算を必要とする問題や、問題の文章が長く、思考力を必要とする問題の正答率が低いため、日常の授業でもしっかりと練習を取り入れていきたいと考える。

<英語>

【成果と課題】

全体としては、府の平均点より4.3ポイント高かった。これまで課題傾向であった書くことの領域のスコアが58.2と、府のスコアより約8ポイント高かった。しかしながら、思考・判断・表現の観点の得点率が府と大差ないので、普段の授業において思考力や表現力を問う発問を行なっていきたい。

【今後に向けて】

単元ごとにワードリストなどで繰り返し得たワードを用いて、スマールステップの英作文を行なっていく。教科書を読む際は行間を読んでみたり、思考力を問う発問を行なっていく。